

イミダクロプリド水和剤 アドマイヤー水和剤	取扱メーカー： クミカ、バイエル、一農、琉産 原体メーカー： バイエル
成分： イミダクロプリド〔ネオニコチノイド系〕……………10.0%	性状： 類白色水和性粉末45μm以下 毒性： 劇物 消防法： ——

【品目特性】……………

- アドマイヤー顆粒水和剤の項参照。
- 浸透移行性に優れているので、ミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類、コナジラミ類などに対して優れた防除効果を発揮する。
- かき、なし、もものカメモシ類に対し、殺虫効果の持続性は短いが果実に対する被害防止効果は長期間期待できる。
- 稲（箱育苗）に灌注処理ができる。
- 他剤で効きにくくなったアブラムシ類にも殺虫効果は高く、残効性も長い。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- アブラムシ類などは抵抗性のつきやすい害虫なので、他の害虫防除も考慮のうえ、他剤とのローテーションによる防除をする。

〈りんご〉

- アブラムシ類のほかキンモンホソガ、ギンモンハモグリガにも有効なので、同時防除期の散布も可能である。

〈ぶどう〉

- 吸汁性害虫であるフタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの併殺も可能である。散布適期幅は広いが、発生初期の散布が有効である。

【薬効・薬害等の注意】……………

- かきのカキクダアザミウマに使用する場合は、巻葉後の散布では効果が劣る場合があるので注意する。
- 湛水直播水稲に使用する場合は、過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に過酸化カルシウム剤と混合して種子に湿粉衣する。過

酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守る。本剤を直接もみに処理すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。処理する薬量は種もみの量に合わせて調整する。

- 稲（箱育苗）に使用する場合、本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないようにする。
- 常温煙霧に使用する場合は、専用の常温煙霧機により、所定の方法で煙霧する。
- できるだけ日中の煙霧はさけ、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態とする。
- 適用作物（稲、すもも、ネクタリン）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を参照。
- マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法（人工受粉、植物ホルモンなど）で受粉作業をする。
- 常温煙霧の薬剤処理中はハウス内に入らない。また薬剤処理終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- 甲殻類に影響を及ぼすので、河川、養殖池等へ飛散、流入しないように注意する。
- 無人航空機散布の際は、共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。



【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリ ドを含む農業 の総使用回数
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	1000～ 2000倍	200～ 700 ℓ	3 日前まで	2回以内	散布	2 回以内
なし	アブラムシ類	1000倍					
	カメムシ類 チュウゴクナシキジラミ						
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ	1000～ 2000倍					
	カメムシ類	1000倍					
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ	1000～ 2000倍					
	カメムシ類	1000倍					
ぶどう	アザミウマ類	1000～ 2000倍					
	フタテンヒメヨコバイ	1000倍					
かき	アザミウマ類	1000～ 2000倍					
	カメムシ類	1000倍					
うめ すもも	アブラムシ類	2000倍					
くり		1000倍					
マンゴー	アザミウマ類			7 日前まで	2回以内	3 回以内 (は種時(直播) 又は移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)	
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	2000倍	60～ 150 ℓ	移植2日前～ 移植当日	1 回	灌注	3 回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)
稲 (箱育苗)	イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	100倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5 ℓ) 1箱当り0.5 ℓ	14 日前まで	2回以内	散布	3 回以内 (植付時の土 壌混和は1回 以内、植付後 は2回以内)
ばれいしょ	アブラムシ類	1000～ 3000倍	100～ 300 ℓ	14 日前まで	2回以内	無人航空 機による 散布	4 回以内 (育苗期の株元 散布及び定植 時の土壌混和 は合計1回以内、 散布及び 常温煙霧は合計 3回以内)
		16倍	3.2 ℓ				
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2000倍	100～ 300 ℓ	前日まで	3回以内	散布	

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリ トを含む農薬 の総使用回数	
す い か	アブラムシ類 アザミウマ類	2000 倍	100～ 300 ℓ	3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回以 内, 散布は 3 回以内)	
メ ロ ン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類						4 回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内, 散 布は 3 回以内)	
にがうり	アザミウマ類			前日まで	2 回以内		2 回以内 (定植時の土壌混 和は 1 回以内)	
ト マ ト	アブラムシ類 コナジラミ類						3 回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内, 散 布は 2 回以内)	
な す	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類						3 回以内 (育苗期の株元散 布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内, 散布 及び常温煙霧は 合計 2 回以内)	
ピーマン	アザミウマ類 アブラムシ類						3 回以内 (育苗期の株元 散布及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内, 散 布は 2 回以内)	
てんさい	テンサイトビハムシ アブラムシ類	60 倍	ペーパーポット 1 冊当り 1 ℓ (3 ℓ / m ²)	定植時		灌注	3 回以内 (種子への処理 又は灌注は 1 回以内, 散布 は 2 回以内)	
茶	チャノキイロアザミウマ	1000～ 2000 倍	200～ 400 ℓ	摘採 7 日前まで	1 回	散布	1 回	
	チャノミドリヒメヨコバイ	1000 倍						
	チャノホソガ							
た ば こ	アブラムシ類	2000 倍	100～ 180 ℓ	10 日前まで				2 回以内 (植付時の土 壌混和は 1 回 以内, 散布は 1 回以内)

適用場所	作物名	適用害虫名	10 a 当り 使用量	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリ ドを含む農薬の 総使用回数
温室，ガ ラス室， ビニール ハウス等 密閉でき る場所	きゅうり	アブラムシ類	100 g	5 ℓ	前日まで	3 回以内	常温 煙霧	4 回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壤 混和は合計 1 回以 内，散布及び常温煙 霧は合計 3 回以内)
	なす					2 回以内		3 回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壤 混和は合計 1 回以 内，散布及び常温煙 霧は合計 2 回以内)
	ぶどう	アザミウマ類	200 g	9 ℓ	21 日前まで			2 回以内

作物名	適用害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む 農薬の総使用回数
湛水 直播 水稻	ツマグロヨコバイ ウンカ類	種もみ 3 kg 当り 150～200 g (200g/10a まで)	は種前	1 回	過酸化カルシウム剤 との同時湿粉衣	3 回以内 (は種時までの処理 は 1 回以内，本田で の散布は 2 回以内)
	イネミズゾウムシ	種もみ 3 kg 当り 200 g (200g/10a まで)				
小麦	ヤギシロトビムシ	種子重量の 0.15%			種子粉衣	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以 内，散布は 2 回以内)